

## デジタル人材共創連盟による教育現場へのサポート

(一社) デジタル人材共創連盟 代表理事 鹿野 利春

### 1. はじめに

新学習指導要領が実施され、高校生全員がプログラミングや情報デザイン、データの活用などを学ぶようになった。デジタルに興味・関心を持つ生徒が増加し、デジタル関連活動に参加する生徒の裾野が全国的に広がりつつある現在、教育現場への適切なサポートが必要になってきている。

### 2. (一社) デジタル人材共創連盟

本連盟（以下、デジ連という）は、2022年7月に経済産業省の提言を社会実装するために誕生し、中学・高校の教員・生徒に向けて、教育の様々な現場で使える役立つ情報を発信している（デジ連：<https://dle.or.jp>）。

### 3. 教員へ向けた情報提供

「情報Ⅰ」「情報Ⅱ」の授業が始まった今、最も必要なものは教員へのサポートである。これらについて講師派遣・研修、授業支援、学生のデジタル活動支援などを行っている。

#### (1) 講師派遣・研修

全国の教育委員会や研究会、学校を対象にリアル・オンラインを問わず研修の実施、研修講師の派遣を行っている。謝金や旅費については基本的に自治体規定のものでお願いしている。

講師の中には、高等専門学校を卒業して間もない20代前半の技術者もいる。プログラミングなどの授業の最初にオンラインで話をしてもらうことで、生徒の興味・関心は増すだろう。キャリア教育などの講演で招くなども考えられる。

デジ連に登録されており、Webページでも公

開している講師の一部を紹介する。

#### 邑上貴洋（むらかみたかひろ）



サイバーエージェントグループ  
アプリポットチーフエフェクト  
アーティスト  
デジタルハリウッド講師

現役の技術者であり、高校生が憧れを持つトップエンジニアと言ってよい。キャリア教育の講師としても適している。

#### 今度珠美（いまだたまみ）



日本デジタル・シティズンシ  
ップ教育研究会副代表理事  
国際大学GLOCOM客員研究員  
鳥取県教育委員会社会教育課

デジタル・シティズンシップ  
についての著書もあり、多くの教育委員会で講演  
を行っている。教員研修の講師としての実績も多  
い。

#### 林宏樹（はやしひろき）



雲雀丘学園中学校・高等学校教  
諭  
JDSSP高等学校データサイエ  
ンス教育研究会主査

数学、情報、総合的な探究の時  
間におけるカリキュラム開発・実践の経験を持  
ち、統計・データサイエンス教育について実践を  
踏まえて指導できる。自治体の研修講師としての  
実績もある。

代表理事の鹿野、学習指導要領の作成に携わった竹中章勝氏も講師の一員である。講師依頼は、デジ連のWebページから行うことができる。

## (2) 地元の講師による講演・研修、工場見学

SONY、NEC、日立製作所などを会員企業にもつ電機・電子・情報通信産業経営者連盟にデジ連の正会員になっていただいた。これらの企業は、全国に支社や工場、グループ会社を持つので、地元の講師が研修や授業支援、キャリア教育を行うことができる。

例えば、地元の企業に勤める女性エンジニアが学校でキャリア教育の講演などを行うことで、将来のロールモデルとしての役割も果たせるのではないだろうか。関連して、工場見学なども受け入れていただく予定である。教育委員会や学校などの来年度事業として考えてみていただきたい。

## 4. 生徒へ向けた情報提供

デジ連は、生徒に向けた情報やサービスの提供も積極的に行っている。

### (1) デジタルコンテストの紹介

全国のコンテストが登録されており、カテゴリやキーワードで検索し、詳細情報の閲覧、主催者Webページへのリンク、参加申し込みまでできる。

#### カテゴリ

- #3D・デジタルファブリケーション
- #Web・アプリ・ゲーム
- #グラフィック
- #セキュリティ
- #デジタルアート
- #デジタルダンス
- #ビジネス・アイデア・企画
- #プログラミング
- #映像・アニメ・動画

### 中高生国際Rubyプログラミングコンテスト2023 in Mitaka

#Web・アプリ・ゲーム #プログラミング



主催  
中高生国際Rubyプログラミングコンテスト実行委員会

参加資格  
個人または団体(生年月日が2005年4月2日以降)で応募できます。

×切  
2023年10月1日(日)

詳細を見る

## (2) 資格試験に向けた教材提供

独立行政法人 情報処理推進機構の実施する「ITパスポート試験」は、令和4年度の受験者が170万人を突破した。多くの企業で、この資格が重視されている証拠である。この資格の出題分野の半分程度を占めるテクノロジー系の内容は、「情報I」と重なる部分が非常に多い。

高校生が、「情報I」の学習を深めつつ、経営やIT管理に関する知識もつけ、将来に向けて学習を深める資格として適している。

デジ連は、正会員の「コエテコ byGMO」の協力を得て、詳しい解説付きで、スマホでも学習できる過去問題集を高校生に無料提供している。現在、100校以上の高校で活用されている。



## 5. 今後に向けて

デジ連は設立して1年あまりの若い団体ではあるが、教育委員会及び学校の教員や生徒に向けて有益な情報、研修や学習のためのコンテンツを提供できるようになってきた。これらのほとんどは、Webページから閲覧または申し込みができる。また、一般会員に登録いただくことで、新たなサービスやコンテンツの提供、オンラインサロンやイベントの案内などもお届けすることができる。

デジ連は、学校教育部会で教育現場のニーズをいただいて、これを産業部会及び会員企業の協力を得て実現、広報部会で広めていくといった体制になっている。

高校生のモチベーションをあげるためにジェンダーに配慮したデジタル関連の大会のガイドライン作成にも取り組んでおり、「デジタル学園祭」という大会の実施も予定している(小誌p.21で紹介)。ぜひ、一般会員に登録いただき、情報を受け取ってほしい。デジ連：<https://dle.or.jp/>